

謝恩日聖日の月を迎えて

信仰と希望を掲げながら

国内教会局長 岩上祝仁



「あなたがたの信仰と希望は神にかかっています。」

（第一ペテロ一章21節）

猛暑の8月を越えて、秋9月に踏み入りました。本来でしたら、夏から秋の聖会によって恵みを受け、霊的に整えられ、クリスマス・年末に向かって教会の営みに進みゆく時期になります。現実には長期間にわたって教会に集まることができません。いつになつたら新型コロナウイルスの感染拡大が終息し、以前のように教会に人が集まることができるようかと考えると、先行きの見通しの悪さに心が重たくなるばかりです。教会が教会としての働きにこれほど大きな支障をきたしたことは、イマヌエルの歴史の中でも経験したことがありません。しかし、この状況ですら、神のお許しとご計画の中にあることだと気づくとき、私たちはある意味で覚悟を決めて信仰生活、教会活動を進めて行くことができます。私たちは自分の力で変えられないことと、力が及ばないことは主に信頼し、主に委ねたいと思います。その上で私たちができることや努力で変えられることは、主を見上げつつ信仰によって全力を尽くしたいと思えます。

私たちは信仰という言葉を開く時に、「信仰」は私たちの側の働き、人間の責任であると考えがちです。信じる私たちがしっかりさえていれば、神は働いてくださると。どこかで信仰を純粹に人間の働きと考えると、どこかで信仰を純粹に人間の働きと考えるべきです。しかし聖書を読むと、聖霊の働きがなければだれもキリストを主と告白することができ

ない（1コリント12章3節）と書かれています。ですから、まず神の恵みの働きがあり、それに応答する形で私たちの信仰が働くのです。この恵みの原則があるからこそ、私たちはどのような状況の中でも、主にあって希望を堅持し続け、信仰の一步を前に踏み出すことができるのです。

このコロナ禍の状況の中でも、変わらずに主イエスは生きて働いておられます。また神の愛と救いの恵みは変わることなく私たちに注がれています。これが私たちの信仰と希望の根拠です。この状況の中でも、私たちはキリストの十字架に現されている神の愛を受け取る時、神の愛に憩うことで心の平安が与えられます。神の働きを信じて、希望を持って前に進むことができるのです。コロナの終息までは今しばらく時間がかかるでしょう。しかし、明けない闇はなく、終わらない試練もありません。神は愛の御手をもって、この中でも信仰に成長するように、キリストに似た者と私たちを造り替えようと計画を持って導いてくださるお方です。

*

最後に9月第三日曜日は、例年ですと謝恩日の聖日を守ります。これまで私たちがのために、また教団・教会のために労してこられた先生方に感謝を表す謝恩日献金が行われます。今年は各教会で集まれないところもあるでしょう。各教会の実情に応じて、謝恩日献金にお加わりいただけると感謝です。

目次

- 信仰と希望を掲げながら……岩上祝仁……1
- 新型コロナウイルスと教会、JEAの取り組み……2
- とにキャン、ユース・ステーション、条例審議……3
- 海外トピックス、国内教会局、災害対策委員会……4
- 岩上輝雄先生追憶、挨拶、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

新型コロナウイルスと教会

この事態から何を学ぶか 3

発想の転換を迫るコロナ禍
神中心の信仰へ

京都伏見教会 大兼久芳規

2020年は教会にとって大きな転換期となり、多くの教会活動が止められています。礼拝も4月から、会堂に集まる礼拝から家庭礼拝に移行し、6月には一度再開しましたが、また8月から家庭礼拝に戻しています。

この時期に、多くの効果的な対策を思いが走りますが、それとは逆に、最も大切な一つのことには心を向ける大切さも教えられています。それは「礼拝」です。教会に行き、兄弟姉妹と交わり、礼拝の喜びを感じていましたが、会堂に行くことが難しくなり、交わりが薄れたときに、最も大切な交わりは、どなたとの交わりであるのかを考えさせられています。

兄弟姉妹の交わりは幸いです。しかし信仰生活の交わりの中心、力の源泉が主との交わりであること。この交わりを希求し、渴きを与えられたのが、ダビデにとって荒野であり、イスラエルの民にとってはバビロン捕囚でした。バ

ビロン捕囚は、人間的には決して喜ばしい期間ではありませんでしたが、信仰的には多くの変化をもたらしています。異教の地に移されたことにより、活ける神への渴きが増し、信仰は神殿中心からみことば中心に変わり、偶像になびきやすい信仰から、神中心の初期の律法学者やパリサイ人へ変えられていったのは、この捕囚期間が関係しています。私たちも、この期間を越えたときに、そのような神への渴き、神中心の信仰に整えられましたら幸いです。

年会で遠距離の兼牧の任命があり、先にインターネットによる礼拝の備えをしていました。その後、コロナの感染拡大で礼拝のライブ配信の必要が起りました。先に備えてくださった主がおられることを教えられました。今後の兼牧時代への対処も、主が進めていくのださることを感じます。

またライブ配信により、礼拝を共に守るだけではなく、その礼拝に未信者のご家族の方が加えられ、病院や施設、また健康的に会堂での礼拝に参加が許されなかった方々が礼拝に加えられていることに、神の国の拡大を感じます。そしてコロナにより、世の価値観が揺さぶられ、揺るがされないものを求めて礼拝に集まれる方もおられ、福音の前進も見えています。先々のことが見え、ただ目の前のことに対処していくだけです。が、備えをしてくださる主と共に、なお歩みを進めたいと願います。

コロナ後を考えながら

顔を合わせることの意義
主に招かれた共同体



神学委員会 葛田崇志

春以降、教報各紙面にはこの主題について様々な角度から洞察に満ちた記事が掲載され、多くの示唆、新たな気付きを与えられています。本稿では地域教会を視野に入れながらの思い巡らしをお分かち致します。

教会は神に招かれて集まる共同体であることが改めて意識されている昨今です。生めよ、増えよ、地に満ちよと祝された神はまた、ご自身の民を地の果てから呼び出して御許に集めてくださいます。私たちが神さまのために集まっているのでなく、神さまが私たちのために呼び集めてくださっているのです。それだからこそ私たちは状況が何であれ、集まらないことに痛みを覚えるのです。

そしてこの痛みは健全なものでも無縁なものであり、兄弟姉妹に会えない寂しさ、物理的に聖徒の交わりを持てない心細さもあります。けれども私たちの痛みは本質的に信仰共同体によってしか拭うことはできないことを味わっています。イ

ンターネット等で、同じ場所に居なくても一体感を得られる方法を感謝して用いているお互いですが、それらが「新しい私たち」に成るか問われると、悩むところだと思います。この悩みは初代教会も負っていた課題です。使徒ヨハネは紙と墨での交流を十分だとは思っていませんでした。ペテロは何通も手紙を送り続けています。パウロとコリント教会の間に生じた行き違いは、パウロが約束通り会いに行くことができなかったところに原因の一端があります。信頼のおける同士が送る書簡であれ、顔の表情までよく映るZoomであれ、主にあつて集まる営みに代わるものではないという思いは、単なる感傷ではありません。

それだけに私たちは再び集まる日が来ることを待ち望みながら現在の状況に対応をしています。ちようど最後の夜、主が弟子たちと共に過越の食事をするを切に願われた御思いと重なるころがあります。その晩、主はやがて神の国が到来したとき、再び食卓を囲むことを待ち望んで十字架に向かわれました。

再び共に集い、礼拝を献げ、恵みを分かち合い、聖餐を囲み、何の隔てもなく顔と顔を合わせるときの主と共に待ち望みつつ、やがての日には御国にあつて本當の意味で主の御前に立つ時を目指して、地上の信仰生活を教会と深く繋がりながら、目に見えない脅威とも向き合いたい、そう祈る者です。

日本福音同盟(JEA)から

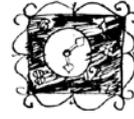
発信を続けています!

コロナ時代の教会
宣教の取り組みは?

JEA 総主事 岩上敬人

日本福音同盟(JEA)では、新型コロナウイルス感染拡大とともに様々な対応を行ってきました。4月に緊急事態宣言が出される中、JEAの諸教会に心を合わせて祈るようをお願いをいたしました。イムマヌエルの諸教会でも祈りに加わってくださいましたことを感謝いたします。次に、JEA神学委員会が「コロナ時代を生きる教会」という神学エッセーを発行しました。オンライン礼拝や聖餐式、教会の集会、またそもそも教会とは、など私たちは大切な神学的問いに直面しています。教会とキリスト者の励ましのために神学委員の先生方が、それぞれの神学的立場から執筆してくださいました。JEAホームページ(Jeanet.org)からダウンロードできますので、お読みいただければ幸いです。9月には宣教フォーラム2020を開催する予定です。テーマは「コロナ禍で、宣教について考える」です。福音派が改めて宣教、また宣教協力について問い直す必要が生じています。皆さまの参加をお待ちしております。

第13回「とにキャン」を開催 はじめてオンラインで! 8月10日(月)午前・午後



甲府教会 岡 信男

第13回「とにキャン」(全国中高生キャン)が、8月10日、午前は中学生、午後は高校生を対象に、Zoomにてリモート開催されました。今年は、「とにキャン #stayhome」と銘打ち、中学生32名、高校生39名が、パソコンやスマホを用いて、各々の自宅や通う教会から、オンラインで繋がりました。国内のみならず、台湾や米国からの参加もありました。参加者には、お揃いのライムグリーン色の「とにキャンTシャツ」を着用してもらいました。

プログラムは、午前午後共に、約2時間半、同じ内容で進行しました。前半は参加者が打ち解けるように、まず特別ゲストの日米首脳(に扮した)兩名による歓迎スピーチで始まり、笑いを誘いました。次いで、グループ対抗クイズ大会を行い、出題される難問珍問に頭を悩ませました。

讚美歌は毎年のとにキャンでお馴染みの「ひまわり」や「主と

もに」など、各自で曲に合わせて歌ったり踊ったりしました。音源は、とにキャンバンドが今回のために事前に収録してくれました。

プログラム後半は、講師の朝岡勝師(同盟徳丸町教会)にメッセージを語って頂きました。聖書箇所は、今回のテーマ「メダリスト」になくならないもののために」に沿って、1コリント九・24〜26とピリピ三・12〜14が開かれました。神さまが一人ひとりを価値ある存在とし、人生を与えてくださったこと、その人生には目指すべき目標があり、途中で棄権することなく、神の愛を原動力に、信仰の仲間と共に、目標に向かって走り抜くようにと、語られました。

メッセージの後、グループ毎で分かち合いの時を持ちました。「イエスさまに出会って、生き方を見出し、使命を持って生きたパウロのように、私も生きていきたい」「二人ひとりの価値を神様が認めてくださっていることがわかったので、神様と共に歩んでいきたい」「教会には同級生がいないので、とにキャンで仲間ができたことがうれしい」など、中高生たちはそれぞれ思いを語り合い、与えられた信仰のレースを走って行こうと励まし合いました。

特別な夏、聖山での三泊四日という当初の計画とは、場所も形態も異なり、制約の多い中での開催となりました。とはいえ、一同が主の御前に集い、同じ時間を共に過ごすことができました。

2020ユース・ステーションZoom 8月15日15~17時に 改めて「問う」ことを学ぶ



名古屋教会 馬場真一

Zoomにて、YSオンラインが持たれました。テーマは「ダウト!! 〴〵あたりまえ」を問う」。現役K GK主事の松尾献先生を講師にお迎えし、最近の猛暑に負けないう、アツイメッセージが語られました。オンライン開催というYS史上初めての試みにもかかわらず、73名もの参加者が与えられ、非常に濃密な2時間でした。

今回のテーマ「ダウト!! 〴〵あたりまえ」を問う」の目指すものは「日常で信じて疑わないようなものをクリティカル(批判的)に捉え、自分の頭で改めて考える」ということです。自分自身の中の〴〵あたりまえ」に斬り込み、「本当にそうなのか」「聖書はどう言っているのか」と問い直す試みです。

プログラムでは、メッセージに入る前に、まずワークシヨップで自分が教会生活の中で〴〵あたりまえ」だと思ってきた事を認識し、言語化する作業を行いました。そしてその事柄に対し想定され得る

批判を加え、さらにその批判に対する反論を考えていきます。なかなか1人でそこまでの応酬をやり慣れない参加者も多く、客観的に捉えることが新鮮だったという声も聞かれました。

その後のメッセージでは、ヨハネの福音書二〇章24〜29節が開かれ、十二弟子の1人であるトマスの記事から語られました。彼は当初、イエスの復活を告げられた時は信じられず「その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じない」と言います。しかし、その出来事の8日後、今度は他の弟子たちと共にいたトマスの目の前にもキリストが現れ、その十字架の傷痕を見た彼は、復活の主を信じる告白へと導かれます。

このトマスから私たちが問うことにおいて学ぶことができるのは「どこで」「どのように」問うのか、ということ。すなわち、キリストを愛する交わりの中で、キリストの十字架を見上げながら「問う」ということです。したがって「問う」こと、さらに言えば、問いつけること、は1人では難しいプロセスであるとも言えます。

そこで、この営みを共に実践するプラットフォームとして、オンラインを使つた交わりの機会を提供する「BIBL」という活動が来月から始動します。どのように運用していくかはまだ手探りですが、引き続き、私たちの活動を覚えてお祈り頂きますと幸いです。

条例審議委員会から……

明年2月の総会に向けて

条文化作業が本格化

委員長 林 正弘

先月、条例審議委員会がオンラインの形で行われました。来年2月に開催予定の教団総会に向けて、条例の改正案作成を中心とする作業を進めるためでした。

今回の委員会では、代表の内山勝師から、次の総会に提案されようとしている改正の趣旨について説明がありました。すでに教団運営委員会が定められ、年会で説明された方針の通りですが、おもな項目としては、教団運営委員会のスリム化、信徒局のエリア制導入(これは細則の変更によってなされます)、聖宣神学院の理事会制導入が挙げられました。

今回は、総会までの大まかな作業日程を定め、変更を検討すべき条項をリストアップしました。今後、これに基づいて改正素案を作成して教団運営委員会が検討していただき、総会代議員や牧師にも提示して意見を伺い、最終案をまとめていくこととなります。

関連部署でさらに検討していた部分も含め、条文化作業は短期間に多くの内容を扱うこととなりますので、正しく進められますように、ぜひお祈りください。

追憶

故岩上輝雄先生

2020年7月14日(享年86)



故岩上輝雄牧師は1934年(昭和9年)3月11日に和歌山県有田郡有田町に父・岩上徳次郎、母・岩上きぬゑの十人兄弟の9番目、三男として誕生しました。

戦前・戦中・戦後の動乱期の幼少時代を和歌山の田舎で育ちました。高校を卒業後、大阪に出て社会人となり人生の虚しさを覚えていた時、キリストと出会いました。大阪伝法教会に通うようになり、1953年6月キリストとその十字架の救いを信じました。同年7月5日洗礼の恵みにあずかりました。1956年8月の第六次関西聖会にて献身に導かれ、3年間の献身者生活の後、1958年第10期生として聖宣神学院に入学しました。1961年、神学院を卒業後は3年間、丸ノ内教会の副牧師

として奉仕。1964年4月に川口朝子牧師と結婚、3人の男の子が与えられました。同年12月に和歌山教会に派遣され、開拓に尽力し、19年間奉仕し、教会の基礎を建てあげました。1984年に神戸教会へ赴任しました。主任牧師の川口始先生を支えて伝道・牧会に当たりました。その後主任牧師、協力牧師として、2019年3月まで神戸教会で35年奉仕しました。教団では長年にわたり近畿教区で教区長として多くの教会の開拓に携わりました。その後、財務局の責任を担い諸教会の会堂問題に取り組みました。後年は鳥取、加古川、徳島、高知などの主任・協力牧師として地方教会を支えました。2019年3月に現役牧師を引退。2020年7月7日に脳梗塞で緊急入院、即日手術を受けました。術中に上腸間膜動脈の梗塞を発症、翌日手術を受けましたが、手遅れでした。一週間、主の恵みの御手に支えられ、闘病生活を過ごしました。7月14日の午後6時27分、平安裡に主の御許に帰り行きました。主イエスと教会、家族を愛して、主に従い抜いた86年4か月の生涯でした。

ご挨拶

ご厚誼に感謝して

神戸教会 岩上朝子

この度の亡夫 岩上輝雄の葬儀に際しまして、全国の教会に皆様よりご弔電や暖かなお言葉を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

高校卒業後に和歌山から大阪に出て、主イエス様と出会って以来、キリストと教会を愛して奉仕を続けた生涯でした。丸の内教会で3年、和歌山教会開拓で20年、神戸教会で33年の奉仕を許されました。7月5日が地上での最後の礼拝となりました(この日は岩上の受洗記念日でもありました)。7月7日に病いに倒れ、一週間の闘病生活の後、愛する主イエスのもとに帰って参りました。

生前、主人は多くの方々に愛され、良きお交わりとご厚情を賜りました。ここに御礼申し上げます。ありがとうございます。

これから遺された者たちで力を合わせ故岩上輝雄が愛した、主と教会に祈りを持って仕えて行きたいと願っております。

遺された家族と神戸教会のために引き続きお祈りを賜りますようお願い申し上げます。謹んでご挨拶とさせていただきます。



バラバラではない!

▼2歳になる孫はクルマが大好き。父親が昔遊んだミニカーの中でも「シユシユチャダ!」といって手にするのはお気に入り。「ゴミ収集車」です。彼が日常的に見る「はたらく車」だからでしょう。炎暑の夏も台風の日も皆が休む祭日も、毎週必ずきてくれるゴミ収集車に私はいつも感謝しています。

▼今、コロナの感染拡大で社会全体が不安に覆われているとき、それでも日々の生活が回っているのは、あらゆる分野で自分の持ち場を忠実に守って働いている多くの人々がいるからです。同じように、毎月届く教報や「つばさ」誌に信仰の養いを頂いています。教会は集会の自粛を余儀なくされ皆で集まることが出来ません。日曜日の朝、家でオンラインやいろいろな方法で礼拝を守っています。それは丁度、初代教会が直面した試練、「その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリヤの諸地方に散らされた。」(使徒八・1)ことを思い出します。さらに「散らされた人たちは、みことばの福音を伝えながら巡り歩いた。」(八・4)と続きます。▼神さまのご計画の中で、教会は迫害によって散らされましたが、ピンチはチャンス。ペテロは小アジア地方に散って寄留している人々に手紙を送り信仰を励ましています。パウロが宣教していく町々にも、散らされた信仰者が教会の基礎となりました。彼らに送った手紙が聖書になりました。▼私たちもまさに今は「散らされた」教会の姿です。ある意味、バラバラです。しかし離ればなれではあっても文字通りのバラバラではありません。お互いを氣遣って祈りあい、オンラインの礼拝に共に与って信仰が養われ、イエス様につながっているからです。神の家族の一員であることの再確認です。ある牧師は高齢の信徒に毎週電話をして、耳元でみことばを伝え祈ります。「先生、よく分かりました!」との応答。今まで耳が遠くて説教が聴こえなかった姉妹にとって最善の方法となりました。また、ドライブスルーで説教原稿を手渡し祈っておられる方法も教えられます。試練の時を経て、束を携え喜びの声を挙げて再び集えるように、今、牧師が、信徒が何を為すべきかを祈り求めています。(高梨侑子)

巻頭言

主がともにおられた



世界宣教局
野田 禎

「主が彼ととおにいられたので彼は成功するものとなり」

(創世記三十九章2節)

この夏、インターネット(ズーム)で聖会やユース・ステーション



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

世界宣教局

ン、とにキャンが開かれました。どの集会にも主がともにおられたことを思います。創世記三十九章にも「主がともにおられた」と書かれています。
1 主がヨセフと共にいられた「成功」(2節)ということばは「ツアラハ」というヘブル語です。これは成功、繁栄を意味します。しかも、この章に3回も同じことばが出てきます。ただの「成功」ではなく、「主がともにおられた」から「成功」が伴ったと記しているのです。この主は大文字です。ですから「ヤハウエ」です。天地万物を造られ、ヨセフを造られ、ヨセフに素晴らしいご計画を与え、いつも見守ってくださる神がヨセフとともにいられたのです。そして、神はヨセフとともにお

られたように、私たちともいって下さいませ。
2 個人的に主を信じたヨセフ
ヨセフは、兄たちによって銀貨20枚で、ミディアンの隊商に奴隷に売られてしまった、エジプトにいました。今までは、彼は父がいるから神を信じていたと思います。ところが、エジプトには彼を守ってくれる父はいません。ヨセフは父から離れたことによって、直接神と語り、また神からの言葉を聞いていったのでしょうか。ヨセフはまことの神を信じ、神の前を歩み、ポテイファルのために誠実に、一生懸命働きました。
三十九章を読んでこんなことを私は思いました。神は夢の中でヨセフに語られ、教えられた、そしてヨセフも神に直接語りかけていたつまり祈りです。まだ聖書のない時代ですが、神はそのようにしてヨセフに語り、ヨセフは応答したのです。子ども、青年たちが、最初は親や教会学校の先生、友達を通して神の素晴らしさを知っていたとしても、ある時点で直接神と関係を確立し、神に愛されていることを喜び、神とともに生きていく幸いをかみしめながら歩めるように祈りましょう。その中できつとイザヤのように「誰を遣わそう」という主の声に「私を遣わしてください!」と答える人が興ざれると思います。宣教師と家族のために祈りましょう。そして、私たちも「主よ、私を用いてください」と信仰の手を挙げませんか。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2020年8月16日

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」(ピリピ四章6節)
台湾は、新型コロナウイルスの影響で2週間ほど遅れて、学校は7月14日から夏休みに入りました。例年ですと、夏休み中は、海外旅行が人気ですが、今年は国からの海外渡航の自粛喚起・出国制限により、台湾国内の観光スポットがどこも混雑しているようです。もちろん、観光地、特に屋内は、マスクの着用や消毒、検温、ソーシャルディスタンスなど防疫対策が励行されています。台湾でも8月に入りやっと、公的、ビジネスラインでの海外からの入国制限が解除され始めていますが、入国後、外国人は2週間の指定ホテルでの隔離、台湾人は2週間の自宅隔離が義務付けられています。ちなみに4月から派遣予定だった日本人学校の先生方もようやく入国し、2週間

後(8月初旬)にやっと赴任できるようです。日本と台湾は、ビジネス面でも観光面でも、繋がりが深いせいか、長期滞在の日本人ビジネスマンや観光客に人気だった格安ホテルが閉館しているのを市内のあちこちで見かけるようになりました。
台中教会では、今月の賛美を、ここ数か月、日本語の手話賛美や振付けのある賛美を紹介しています。日本語を学んでいる台湾人にとっては、日本語の単語と動作(手話)セットだと覚えやすく、日本人にとっても簡単な手話の学びとなり、好評です。(紹介する手話賛美は、動画サイトにアップされているものを独学し、紹介しています。)
毎週午後3時半から持たれている台南聖教会の日本語礼拝には、私たち(宣教師)は、毎月第二聖日に説教のご奉仕のため、参加しています。南聖教会の活発な宣教伝道の働きや充実した設備などを見ていただくために、台中教会のメンバーにも、応援参加をお勧めしていますが、その声に即応して、七月には、3名の姉妹方が参加してくださいました。教会堂の規模ももちろんのこと、宣教活動の幅広さや、そのスピリットやビジョンに感銘を受け、規模は違いますが、宣教のために自らがどんな奉仕や協力ができるか、とチャレンジをいただいた経験となりました。また7月12日の礼拝では、春はコロナ対策で見合わせた夏季の聖餐



式を守ることが許され、主の十字架と血潮を覚える陪餐の恵みを深く噛み締めるひと時ともなりました。

その日本語礼拝では、第五聖日がある時には、「福音礼拝」として信仰のお証し中心の礼拝とティータイムでの交流の時をもっていきます。8月30日は、夏休み中ということもあり、台中教会から十数名で参加し、特別チームでご奉仕することにになり、準備を進めています。救いのお証し、福音スキットとショート・メッセージ、手話賛美の紹介を考えています。又、集会後には、台南の日本語礼拝スタイルとの交流会も企画されています。クリスチャン同士の主にお会いするお交わりを期待しています。この初めてのころろみ祝され、台中教会、台南日本語礼拝双方にとって、恵みの時、信仰の良きチャレンジの時となりますよう、お祈りをお願いします。■



CHINA

香港

鹿島義喜・朱蕙芬*2020年8月7日

香港のためにお祈りをありがとうございます。特に政治的な課題と新型コロナウイルスのための祈りの手に心から感謝致します。二つとも大きな試練ですが、御言葉に信頼を置きつつ、主と共に一歩一歩進ませていただいております。香港では7月1日は香港特別行政区返還記念日(23周年)でした。1997年、中国に香港が返還される際に、香港には一国二制度が導入されました。イギリス統治時代と同様の高度な自治と民主主義が50年間保証されてきました。それが6月末の香港国家安全維持法の制定により揺れ動いています。

コロナウイルスの方は、集会制限令というものが出されていて、公共の場で4人を越えて集まるものが出来なくなっていました。その後、制限令の4人が8人になったので、インマヌエル教会もお借りしているCCC教会も、その枠で9人を越えないようにして、マスク着用、飲み食い禁止、ただ

聖餐式は礼拝式の一部と理解されていて、執り行うことが許されてきました。集会の規制が4人以下が8人、50人までと感染者が抑えられ、だいぶ緩和されてほっとしていました。しかし、7月中旬から再び増加し、8人が4人そして2人となってしまいました。教会では各自で工夫してオンラインを利用したりしながら礼拝を捧げています。

香港からの大陸への移動も更に厳しくなり、事前24時間以内のPCR陰性証明書が必要になりました。14日間の強制隔離規制が解けるまでは動けないので、今は広州への働きも中止せざるを得ない状況です。出産のために一時帰国していた姉妹も赤ん坊を連れて広州に戻れない現状です。このような状況がいつまで続くのかは分かりませんが、全てのことに主の最善を祈っています。

そのような中、突然、葬儀が入りました(写真)。香港滞在23年程で国際結婚された方でした。ご主人が58歳の日本人の方で、癌を患い、最後はホスピスで、祈りの中、天に召されました。コロナ禍の中、日本からの家族の出席も叶わず、香港インマヌエル教会の元、奥様をはじめ香港の方だけで葬儀を行いました。

まだ続く困難を通されながらも6月7日には創立11周年記念礼拝を捧げることが許され、幹事のお嬢さんがお祝いのクッキーを焼いてきてくれたことは大きな励まし



となりました。この地域の平和のために引き続き覚えてお祈りいただければ感謝です。■



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2020年8月7日

8月に入りフィリピンのコロナウイルス累計感染者十万人を越え、とうとう東南アジアで最も多い感染者数となりました。とりわけ、マニラでは、経済の回復を目的に、隔離措置が一時引き下げられましたが、感染者増加で医療は逼迫した状態となり、医療従事者たちが



大統領に直訴する事態となっています。結局、隔離措置はハイレベルに戻りましたが、感染の状況は悪化の一途を辿っています。

7月6日に、常喜は職員を図書館に集め学習管理システム(グループ・クラスルーム)のワークショップを開き、このシステムの使用方法をプレゼンテーションしながら一緒にクラスを作成していただきました。常喜も職員も暗中模索しながらクラスの進め方を考え、カリキュラムを作成し準備に取り組んでいます。学生たちとのコミュニケーションが果たしてどのくらい取れるのか、まだ分かりませんが、できるところまで準備を進めていきます。フェイスブックページを通して新学期の入学登録がはじまりました。感謝なことに現在のところ53名の入学登録者が与えられ、その内50名が通常のカリキュラムを取る本学生となります。引き続き入学登録者が与えられますようお祈りください。■



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2020年8月3日



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2020年7月27日

どこへも出られない中、少しずつ必要な事をさせて頂いています。今後のことを考えつつ、様々な必要も見えてきて、このコロナのことで帰国したのも必要な時期であったと思わされています。神さまの時の摂理は、こういう突然変更の中にこそ働いているのだと知らされています。

今はひたすら体力回復につとめつつ、かなり戻ってきているのを感じています。我孫子も畑があり、自然に囲まれた中での歩みに感謝しています。

現在はどういう訳か8月の飛行機チケットがかなりの高額になっていて難しい状況で、9月を考えています。やはり一人では少し心配なので根廻宣教師か友人と一緒に帰れたらと願っています。コロナは日本でも大変な状況ですが、ザンビアもかなり増加し、都市の病院は大変なようだと言根廻宣教師から聞いています。続いてお祈りを宜しくお願いいたします。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2020年7月27日

7月に入ってもなお日本に留まりつつ、再赴任の時を待ち続けております。ザンビアでは冬を迎えており、ザンビアの友人との会話でもとても寒い気候だと語っていました。ジェンボにおいては新型コロナウイルス感染症の問題があっても、比較的平穏な日々を過ごしているようです。クリニックでも新型コロナウイルスの患者はいまだに発生していません。また確定では先月の教報8月号の公報にザンビア宣教師ビデオについてお知らせしました。そのビデオで奉仕のこと、宣教師館建設のことなどを載せました。ぜひそちらの方もご覧いただければと願っています。そのビデオ作成後に新たな情報が入りましたのでそのことについて共有させていただきます。ビデオが作成したのは7月上旬ですが、その後すぐに新しい情報が入り、新型コロナウイルス感染者数及び死者数が約倍になっていたことがわかりました。7月7日では感染者

数1895人、死者数42人だったのに対し、18日以降の感染者数は急激に増加し、7月27日現在、感染者数が4481人に、死者数が139人ということが報告されています。その数が発表された際に感染者の滞り場所も発表され、第1期にいたジンバという町から1名感染者が出ていたことがわかりました。そこにいる友人から感染者が出た後の町の現状を聞きましたが特別変化はなく、マスクしている人もわずかだということですが、今現在、ザンビアへの渡航は制限されておりませんが、空港でのスクリーニング、自宅での14日の隔離、またソーシャルディスタンスを保つようにとのザンビア保健省からの指示が出ております。

私の現状ですが、我孫子のミッシェンハウスにおいて状況を見極めながら、再赴任の時を待ち、そのための準備を一つずつさせていたいただいております。また確定ではありませんが、9月初め頃に再赴任を願っております。

病院での働きも今はしておりませんが、日々の主の御言葉に触れながら、主の愛の中を歩ませていただいております。今後のため、導きのため、なお続けてお祈りに覚えたくだされは幸いです。

会計報告7月分
宣教師献金 一、五五〇、〇三〇円
月平均 一、七六二、五五五円

お祈りの課題

ケニア(島田就子)
◆現在もウイルス等から守られている感謝
◆マリリア、新型コロナウイルス、イナゴ、テロ等から守られたまた対処できるように
◆麻酔科、整形外科を始めとする働き人(ルカ十章2節)が起されるように
台湾(平瀬)
◆台湾は異常高温です。7月の平均最高気温は35度でした。
◆教会に戻りつつある方々、戻っておられない方々が、個々に主の語りかけを受け、前に進んでいきますように
◆救われる方々がおこされますように

台湾の政治、経済、治安の安定のため。時代の節目を迎えています
◆日本にいる子どもたちの学校生活が祝されますように。オンライン授業、通常登校のみ守りのため
ザンビア(富澤)
◆世界のコロナの状況が少しでも終息に向かう知恵と心が保たれますように
◆ジェンボのスタッフが家を見てくださっているワーカーが守られますように
◆ザンビアへの帰国準備と健康が守られますように
ザンビア(根廻)
◆日々守られている感謝
◆再赴任の見通しが見えている中準備が守られるように
◆ジェンボの働きが祝されるように

◆コロナ禍においても神の贖罪の計画が前進し、全伝道者が気落ちせず、怠惰から守られ、救霊と教会建設に励むことができるように
◆地方の教会の巡回を開始したグループ宣教師とマーク宣教師の働き、グレッグ師の教会が依然として経済的な戦いの中、働きを進めています。主が信仰の勝利を捧せて下さり、自立の教会建設がなされますように
フィリピン(豊田)
◆学生たちの健康と霊性のために、そしてリモート学習スタイルに一日も早く慣れるように
◆学生たちと職員たちのコミュニケーションがリモート学習を通して、うまく取れるように
◆事故、怪我、過ち、災害、疫病から家族が守られますように

に
香港(鹿島)
◆教会の12年目の歩みの中、みことばによる成長が与えられますように
◆牧師の健康が守られ、香港と瓜州での邦人伝道の働きが新しい形で続けられますように
◆歴史的な転換点にある香港の政治と社会秩序の安定、経済的な回復のため
カンボジア(島田緑乃)
◆シエムリアップ州に開拓伝道中のマラカイ牧師がバイクで犬と衝突、鎖骨にひびが入って病院に担ぎ込まれました。手術、治療の費用が与えられ、正しい処置が施されるように
◆コロナ禍においても神の贖罪の計画が前進し、全伝道者が気落ちせず、怠惰から守られ、救霊と教会建設に励むことができるように
◆地方の教会の巡回を開始したグループ宣教師とマーク宣教師の働き、グレッグ師の教会が依然として経済的な戦いの中、働きを進めています。主が信仰の勝利を捧せて下さり、自立の教会建設がなされますように
フィリピン(豊田)
◆学生たちの健康と霊性のために、そしてリモート学習スタイルに一日も早く慣れるように
◆学生たちと職員たちのコミュニケーションがリモート学習を通して、うまく取れるように
◆事故、怪我、過ち、災害、疫病から家族が守られますように

◆コロナ禍においても神の贖罪の計画が前進し、全伝道者が気落ちせず、怠惰から守られ、救霊と教会建設に励むことができるように
◆地方の教会の巡回を開始したグループ宣教師とマーク宣教師の働き、グレッグ師の教会が依然として経済的な戦いの中、働きを進めています。主が信仰の勝利を捧せて下さり、自立の教会建設がなされますように
フィリピン(豊田)
◆学生たちの健康と霊性のために、そしてリモート学習スタイルに一日も早く慣れるように
◆学生たちと職員たちのコミュニケーションがリモート学習を通して、うまく取れるように
◆事故、怪我、過ち、災害、疫病から家族が守られますように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

基本を大切に

院長 ● 林 正弘

「ダニエルは、その文書に署名されたことを知って自分の家に帰った。……彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。」(ダニエル六・10)

今年の夏は「特別な夏」だと、いろいろなところで耳にしました。子どもたちの夏休みの期間も地域によってまちまちで短めであり、帰省や旅行も自粛した方が多く、教会でも聖会やキャンプなどの恒例行事の多くが中止になりました。そのなかで行われている夏期実習も特別な形になっています。期間が6週間に短縮され、実習期

間の多くが9月となりました。遭わされた各教会でも、特別な行事が少ないという、これもまた「特別」さがあります。

特別なことに対してはそれ相応の対処が必要です。いつもとは違うことをしなければならぬという面があります。しかし、臨機応変の対応をするためには、それまでに積み重ねることによって培われた基本がしっかりしていなければなりません。

ダニエルにとってその基本は、変わることにない神との交流、すなわち、定まった時の祈りでした。彼は、新しい禁令が公布されたこ

とを知っていました。状況は大きく変わりました。しかし、神に祈るといふ営みを変えることはありませんでした。状況に応じてやり方を変えることがいけないのではありません。しかし、ダニエルにとって、神に祈るといふ営みは信仰の根幹に関わることであったので、大変なことになるのを承知の上で彼は以前からしていたことを変えることなく貫きました。

私たちは、新しい状況に直面するとき、対応を迫られます。今年多くのことに変更を加えてきたと思います。これからも変えていくことでしよう。しかし同時に、以前からしていたこと、そしてこれからも守るべき基本があるので、自分が置かれた場で、それが何かをしっかりと見極めたいと思います。基本は大切です。



院長室は「初代院長記念室」に模様替えしました

神学エッセー

教会施設の管理 2

将来を見据えて



田中 進

50〜60年以上はもつ、ただし、その間に掛かる経費は当初の建築費の半額程度の支出が見込まれる。とすれば会堂建築のために全力を注いで、これで終わったということではない。建てたということ、新たな負担の始まりであることを、最初から計算に入れておかなければならないのである。

教会堂建設や購入(中古物件なども含む)の際に考慮すべきことがある。すべてのものは「古びていく」ものであり、維持管理のための支出が必要だということである。本部事務所が同居している(区分所有)お茶の水クリスチャンセンター(OCビル)は数年前、大きな問題に直面した。築30年が近づいたころ、大規模修繕が迫ってきているのに積立管理費が余りにも少なかったからである。管理組合は専門家にアドバイスを得ながら、急遽対策をたて、各区分所有者負担の修繕積立費は一挙に十倍に引き上げられた。現在は将来を展望し着実に管理を進めている。

新築建物であれば、大きな瑕疵(防水など)は10年間は修理保証があるが、それ以降は所有者が費用を賄っていかねばならない。鉄筋コンクリート造は百年は持つと言われているが、それも定期的なメンテナンスを継続してのことである。木造建築も同様である。木造でもしっかりとした建築であれば

ルカの福音書一四章28節には「あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、まず座って、完成させるのに十分な金があるかどうか、費用を計算しない人がいるでしょうか」と記されている。文脈は、主イエスの弟子となった者が、最初の信仰に堅く立ち続け、信仰者としてその生涯を全うするために必要なことは何なのであるかが語られているのであるが、「まず坐って」(31節も参照、共同訳では「腰を据えて」とある。新会堂建設や大規模修繕などが迫っているときにおいても同じである。冷静に計算し将来を展望し、良く考えて準備すべきである。そして、最終的に求められるのは、やはり主の弟子である教会員一人ひとりが「自分の十字架を負って」、主イエスに最後までついていくことである。

コロナ禍を経験し、大きな変化を余儀なくされていく私たちは、教会の本質は何かを問われている。建物を所有していることが負担になることもある。将来教会を担う者たちに何を残すべきなのだろうか。「腰を据えて」考えよう。

◆前期の学びを終えて

父と娘

聴講生 石川牧子

前期の授業を終えようとしています。今期当初は娘の幼稚園が再開していない中で神学院の授業がズームで再開され、その間、娘と過ごしてくれる人を探す課題がありました。コロナの状況下で前途多難。履修そのものを断念せざるを得ない状況となり、その旨を学院へお伝えすると、思いもよらぬ返事が返ってきました。「様々な可能性があるかも知れないから心配せずに履修されますように。」自分からは出て来ない発想でした。祈り信じて、三科目を履修しました。その直後、授業再開の話聞いた私の父から「週一なら仕事のシフトを調整できる」と連絡が来ました。義理の両親からも、仕事が自粛になり、協力できるとの申し出が来ました。神様！の一言。前期は家族寮の一室で受講。授業中、別の部屋から娘と父の大きな笑い声が聞こえてくるという新しいスタイルの学びが始まりました。私はクリスチャンホームで育ちましたが、10代から20代は様々要因から教会もクリスチャンの家族も嫌になり、完全に離れていった者

です。放送伝道の働きをしていた父に対しては罵声を浴びせ、迫害し、たくさん酷いことをしてきた過去があります。しかし私が神の元に帰り、洗礼を受けた時、父は涙を流し、喜んで私を受け入れてくれたのです。その父が今、自分の犠牲を払って大切な私の娘のために時間を捧げてくれています。父の愛を深く感じます。これが父なる神様の愛なんだと。三科目全ての授業の受講が許されました。主は私の学びを望まれ、この献身が自分事でなく、主のご計画なんだということに改めて感じました。そして、そのご計画のために、様々な方々の祈りと支えがたくさん積みまれていることも実感しています。「すべてのものが神から発し、神によってなり、神に至るのです。」(ローマ一・36)

◆前期の学びを終えて

共に立つ

正規コース 林 眞光

「ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょ。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。」(ヘブル

一〇・25)

5月からオンラインでの授業が始まり、無事に前期の学びを終えました。例年とは違う形でしたが対応してくださった先生方とスタッフの皆さまに感謝します。このオンライン授業を通して一つ思わされたことがあります。それは集まることで得られる恵みです。私が日曜日実習をさせていただいている教会はコロナウイルスの影響で、教会員の方々に礼拝出席を控えていただいた時期がありました。私はその期間中も実習のため教会で牧師先生とご家族と一緒に礼拝を守り、オンライン配信などの奉仕をしていました。今振り返るとその時は集まることのできない教会員の方々の気持ちを分かっているつもりでしたが、自分は教会に集い、礼拝をささげていたので完全には理解できてい



前期最終日にソーシャルディスタンスで食堂を使用しました

なかつたと思います。それに気づいたのは最近のことでした。前期の神学院での学びのほとんどはオンラインでの授業でした。しかし8月に集中講義という形で一教科だけ学院の教室で集まって授業をすることができました(もちろん感染対策は万全です)。その授業に参加したとき初めて礼拝に出席できなかった方々の気持ちに分かりました。オンラインではどうしても受けるだけという感覚が強いのですが、一つのところに集まるときオンラインでは味わえない「共に」神様の前に立つ感覚があると感じました。礼拝も集まり「共に」神様の前に立つとき励ましがあり、恵みを受け取ることができると思いました。

◆前期の学びを終えて

道の駅

短期コース 藤井佳代子

「また、神のみこころにより、喜びをもってあなたがたのところに行き、あなたがたとともに、憩いを得ることができるよう、祈ってください。どうか、平和の神が、あなたがたすべてとともにいてくださいますように。アーメン。」(ローマ一五・32、33)

学びの中で、受肉してくださいました主イエス・キリストが、私たち一人ひとりに寄り添ってください。たように、相手の気持ちにどれほど共感し尊重できるかを考えさせられました。あらゆる苦しみの中にある方々を前に、当事者しか分からないという理解をしつつ、自分は何もできなくても、寄り添わせていただくという姿勢が欠かせないことを学びました。自分の弱さと責任範囲を認識し、人と健全な関係を築ける内面の柔軟さ、助けていただく謙虚さも問われませんでした。自分も苦しみの中にいた時にそのように寄り添ってくださった方々に慰められたことをあらためて感謝いたしました。

道の駅、平和の主がともにいてくださり、人々がともに憩いを得ることができている情景を思い浮かべます。厳しい現実の日々から少し離れて、ゆるりと過ごせる、温かく優しい空間。それぞれが再び立つ前に、ともに涙し笑い、ともに建て上げられる交流。主と人に助けられ、恵みゆえの信仰で自分が在ること、主が私たち一人ひとりをういて成し遂げてくださる希望を思い起こしました。神学院にて、聖書の学びと思考を深めることに恵まれました。実習もさせていただきありがとうございました。皆様の尊いお祈りとご支援に心より感謝いたします。主から与えられた道を歩み続けることができそうです。祈っていただけると幸いです。

いま神学院では…… オンライン授業の体験から 教師●矢木良雄



飯事です。日本も75年前はそうだったのです。「いままで通り」「以前のように」が通用しない現実、当たり前が当たり前でなくなるような事態に冷静に、柔軟に対応できるのか、その覚悟があるのか、それを試されたような気がします。今後10年以内に押し寄せる教会員のさらなる高齢化、牧師の不足、無牧教会。待ったなしでやって来るこの課題を考えると、今回のコロナ禍は貴重な体験でした。集まることはできません。祈り合うことはできません。教会を支えようという意識も強くされたように思います。コロナ禍で教会は弱体化どころか、一人ひとりの自覚的な信仰が芽ばえ、強化されたような気がします。オンラインの礼拝説教も予想を上回って閲覧されています。コロナ禍の教会は「意外といけるじゃん」そんな印象でした。ヨハネはひとりパトモス島に流されて神のご計画の完成を見せられました。不遇な時こそ神を知る貴重な時間であることを学んだ、そんな半年だったように思います。

幸い、神学生たちは寮に居住しておりましたし、皆さんNOJOに戸惑うこともなく対応してくれました。コロナ禍という思わぬ出来事でしたが、神学院のクラスでオンラインの可能性を体験として味わうことができました。その意味で大切なトライアルの時であったと思います。前期の授業を終えて、感想を記したいと思います。

第一は、「いままで通り」が通用しない、そんな現実が起り得るといふ警鐘だったように思います。コロナ禍で、神学院のクラスだけでなく、教会も同様に「強いられたい」困難に向き合わざるを得ません。教会に集まれないという考えもなかった事態に直面させられました。しかしこれは迫害に晒されている国では日常茶

第二は、オンラインが可能性への突破口を開いたことです。オンラインの活用はこれまで無理！と決めつけていた事がそうでもないと考え直すきっかけになりました。この波及効果は大きいと思います。私たちの固まっていた頭や新しい事に取り組む意気込みを活性化し、柔軟にしました。元に戻れないならば、それを超える何かを見つけなければなりません。(続)

同窓生の近況

54期生

単立横浜ともしび宣教会●木藤良徳



高校も出ていないハグレ者が、十字架を信じ生まれ変わり、8月で35周年になりました。主の召命を受けて宣教会を発足して22年目に入っております。現在は各地で路傍伝道を展開しています。その路傍で分かったことは、聖書信仰に無知な方が多い事と、信仰二世の方々には主イエスを知らないキリスト者に至らない人が多い事です。牧師の娘として教会で生まれたのに、異端の役員になりユニテリアンに陥っている方に会ったこともあります。現代は聖書の示す正に末の「困難な時代」です。全ての人は自身の人生に汗をかき、恥をかき、涙を流し、血を流して生きて行くアナログ的固まりです。この末の現代だからこそ、魂の救いである明確な新生、聖潔、再臨のアナログ的宣証は必須だと思います。これを讀まれる若いキリスト者の皆様も、是非宣証に立ち上がってください。どうぞようお勧めいたします。

振り返る時間の恵み

経理課 渡辺真理

新型ウィルスの感染拡大による自粛期間を通して、私は過去を振り返る時間が与えられております。私は赴任当初に比べて、恵みの世界の捉え方が変化していることを最近感じております。

私は自分の欠けや弱さを正しく受容出来ない者です。しかし今は、この弱さを以前より正しく受容出来るようになってきました。それは、私が神さまに愛されている存在であること。その理解が頭だけでなく体験的に深められているからです。

ありのままの自分を客観的に見つめ直しながら、この恵みについて探求する時を過ごしております。「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。」(1コリント一五・10)

神学院スタッフ…恵みの想起

学苑だより



●夏期実習中の静かなキャンパスです。2週遅れでスタート、27日(日)までの6週間・一個所です。

●横浜商科大学のグラウンドの向こう側には商大の教室棟がありましたが、最近では使われていませんでした。教室棟は解体、土地は更地になりました。この夏、その跡地に、建売住宅がどんどん建ち始めました。キャンパス周辺の様子も少しずつ変わって行きます。

●教室のプロジェクトが壊れたため、新機種を導入します。性能は格段に向上、使い慣れていた黒板はホワイトボードになります。

●ペテルハウスは、様子を見ながら再開時期を探っています。お問い合わせは馬場姉まで。

●ボランティアの方々のご奉仕はしばらくお休みです。

●図書館は動き始めています。ご利用の方はご連絡ください。

●神学院祈り会は行いません。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。7月の会計報告をさせていただきます。

7月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥647,300
教会団体による「神学院献金」
¥394,950
合計 ¥1,042,250
その他の献金(一時・特別)
¥129,500

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「主のおしえを喜びとし昼も夜もそのおしえを口ずさむ人。その人は流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結びその葉は枯れずそのなすことはすべて栄える。」
 (詩篇一篇2〜3節)

酷暑の続いた8月を越えて、秋に向かいます。今年には自然界も豊作が阻まれる様相ですが、条件の悪い中でも、さまざまな形で礼拝をささげ、伝道を続けていく各教会に主の祝福が豊かにありますようにお祈り申し上げます。各地の聖会だけでなく聖化大会も開催されない中、さまざまな信仰の良書を読むことも大きな助けになることとしましょう。耐え忍び続ける私たちに上寄りの力が豊かに注がれますようにお祈りいたします。

●本部
 ▼本部業務について
 9月以降も毎週火曜日のみ、午後1時〜4時までの業務を継続いたします。総務局職員が1名常駐しています。出版事業部も木曜日、常駐者1名を置き午後1時〜4時までの業務を継続します。
 (会議)
 7日(月)
 教団運営委員会(人事委員会)(オンライン会議)
 9月20日(第三日曜日)は教団

の謝恩日聖日として定められています。この日を覚え、感謝献金の実施及び厚生資金献金のアピール、厚生委員会の働き、祝福の祈りを願っています。

引退された先生方の日々の生活が祝され、主の平安の内に過ごされますようにお祈りしましょう。
 (厚生委員会より)
 10月19〜20日、11月16日に予定していた研修会ステップ2(75歳以上の牧師対象)は中止します。

●国内教会局(会議)
 8月31日(月)〜9月1日(火) 全国B.A.教区主事会議(オンライン会議)
 《各地域聖会開催情報9〜11月》
 ◇静岡聖会
 DVDによるメッセージの配布となりました。

◇沖縄聖会(開催予定)
 日程11月3日(火)
 講師1大兼久芳規師
 会場1那覇教会

●世界宣教局
 ▼2020年ザンビア宣教報告動画が世界宣教局ホームページ、ザンビアのページから見られます。パスワードは「IGM2020ZmV」です。オンラインでの宣教祈禱会や家庭集会にもお使い頂けます。なお、富澤香宣教師、根廻恵子宣教師は9月18日にザンビアへ再赴任の予定です。

▼今年度も「宣教コイン献金」を用いて、「愛の泉プロジェクト」を行います。11月の宣教聖日を目

指して皆様のご協力をお願いいたします。
 ・昨年度総額は2,002,060円
 ・「愛の泉プロジェクト」支出総額は539,670円で次の必要に充てられました。

①カンボジア本部献堂式支援、教会用楽器
 ②ケニア皮膚移植のための替え刃
 ③フィリピン聖書大学の台所ドア修理、炊飯器とキーボード
 ④ザンビア宣教訪問団の奉仕用ペンキ、倉庫の中の棚の材料など
 ・残額は宣教師活動費として宣教のために用いられました。

▼オンラインでの局運営委員会、局員会は10月6日(火)に変更となります。

●教育局(教育部・信徒教育課)
 ▼信徒伝道者養成課程スクーリング
 日程11月1日(火)のみ
 Zoomにて開催予定
 講師1岩上敬人師による「パウロ書簡」の学び
 説教演習担当1河村從彦師、小川宣嗣師、野田禎師
 (教育部・生涯学習課)

▼本年第2回 若手牧師研修会リモートミーティング (Zoomを用いて)
 日程11月29日(木) 午後1時半〜3時半
 テーマ1コロナ禍における牧師のセルフケア②
 内容1ショートディポジション、

発題「コロナ禍における牧師のセルフケア②」その後「コロナ禍における牧会の課題」、グループディスカッションなど
 (青少年部・青年課)
 ▼9月20日(日)〜21日(月)にかけて予定されていた九州地区青年大会は中止。
 ▼YSB第5回全国リトリートの開催 (Zoomによるオンラインミーティング)
 日程11月22日(日) 午後3時〜5時
 講師1河村從彦師
 ●聖宣神学院
 ▼夏期実習は9月27日(日)までです。
 ▼9月は、神学院祈り会は行いません。
 ▼10月のオープン・キャンパスは行いません。
 ▼ベテルハウスは、コロナの影響でご利用を控えていただいています。再開については検討中です。お問い合わせは学務課の馬場姉まで。

●出版事業部(会議) 9月4日(金)
 出版事業部全体会(スーム会議)

▼岩上朝子師(神戸教会)は7月末をもって引退されました。これまでの貴い御奉仕に主の豊かなお報いをお祈り申し上げます。

▼児玉トメ子(別府教会)元総会代議員)が7月6日に召天され、同日に告別式が行われました。享年91でした。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。

▼闘病中であられた戸谷芳朗師(枚方教会)は8月14日、午後9時42分に64年の地上生涯を走り終え、召天されました。(翌日が65歳の誕生日でした。)同17日に枚方教会で告別式が行われました。ご遺族、また枚方教会に主の慰めをお祈り申し上げます。

●eラーニング開講のご案内
 開講は10月5日からですが、講座のnoteマガジンは今からお申し込みが可能です！高橋秀典先生の「恐怖からの解放者イエス」(いのちのことは社より9月上旬発売予定)をテキストとして使うonline講座「へブル人への手紙(私訳もあり)」からの学び！
 受講料は8000円です。インマヌエルの牧師や神学生には受講補助が適応されます。よろしくお願いたします。講座のプロモーション動画も公開されました！
<https://note.com/graceonline/m/m9be2b1a6e897>

消息報告



印刷所 崎玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル イムマヌエル総合伝道団本部
 発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣
 発行所 東京都千代田区神田駿河台一



教報PDFパスワード119523
 新生宣教団 定価 一部110円(税込)
 郵便振替 001107133609